



①大坂夏の陣供養塔

片山の小松山周辺は、元和元年（1615年）の大坂夏の陣の本格的な戦いの火ぶたが切られた場所です。豊臣方は道明寺方面に陣取り、後藤又兵衛が率いる隊は小松山を占領し戦闘が開始されました。しかし多勢に無勢の戦いは徳川方に軍配が上がり、又兵衛が討ち死にしました。玉手山公園内、玉手山7号墳の後円部頂の供養塔は、両軍の激しい戦いによる多くの戦死者を弔うために、同地区の安福寺を再興した珂憶上人が建立しました。



②後藤又兵衛の碑

後藤又兵衛は筑前藩主黒田長政に仕え、文禄の役、関ヶ原の戦いで奮戦しました。その後、長政に謀反の疑いをかけられ浪人となります。豊臣秀頼に招かれて大坂城に入城、大坂夏の陣で討ち死にしました。この地から北西約1kmの片山で自害したともわれています。



③奥田三郎右衛門忠次の墓

徳川方侍大将格の奥田三郎右衛門忠次は、小松山を占領した後藤又兵衛隊を討とうと国分方面より向かいますが、又兵衛隊の激しい抵抗により、あえなく討ち死にしました。玉手山1号墳の後円部頂に建つ供養塔に、家来5名と共にその名が刻まれています。



④安福寺

安福寺は奈良時代の僧行基の創立ですが、中世には荒れはてただ一棟の小堂があるにすぎませんでした。寛文年間（1661年から1673年）に浄土宗の珂憶上人^{かおく}によって再興されました。徳川家康の孫である尾張徳川家2代藩主・光友が珂憶の学徳を慕って帰依し、安福寺の再建に力を貸しました。その後も尾張徳川家は安福寺に寄進を続け、菩提樹時絵香篋、山水時絵硯箱、牡丹時絵硯箱は重要文化財に指定されています。こうしたことから境内の最高所には、光友の廟所があり、中央に光友、その左に夫人、右に嫡子の墓碑が建っています。この時に建立された本堂は、大風や地震に耐えるように屋根を低くして太い柱で支えた「珂憶建」^{かおくだて}と呼ばれる様式で、建築史上、貴重な存在とされています。



⑤玉手橋

昭和3年、西日本最初の遊園地である玉手山遊園（現在は市立玉手山公園）に通じる橋として、大阪鉄道（近鉄南大阪線の前身）が石川に架けた、長さ151m、幅約3mの鉄製の吊り橋です。

日本で唯一の五径間の吊り橋で、現在、国の登録有形文化財となっています。